

# 柔道の再興と学校必修化を支援する「東北3県柔道指導キャラバン」

## 被災地域の柔道環境 再興から“充実”へ

代表者：増地 克之(体育系・准教授)

参加者：桐生 習作(体育センター・特任助教)

福見 友子(了徳寺学園職)

小林 優希, 藤田 湧平(人間総合科学研究科)

川戸 湧也, 近藤 俊, 菅原 歩巴, 佐々木 千鶴(体育専門学群)

### 【概要】

東日本大震災で被災した福島・宮城・岩手の3県において、発生から2年9ヶ月が経過し各地で道場の再開が行なわれているが、地域の道場を取り巻く環境は被災以前と比較してまだ十分に復興しているとは言いがたい現状がある。加えて、学校教育現場においては柔道(武道)の必修化がなされ柔道を専門としない保健体育科の教員においてはその指導法などの各種不安を抱えているという現状もある。

そこで、

#### ①少年柔道教室

#### ②保健体育科教員に対する柔道指導法講習会

上記の2事業を実施し、該当地域の柔道環境の充実に尽力するものである。

### 【内容と今後の展望】

本事業では柔道部監督を代表に体育専門学群および人間総合科学研究科に所属する柔道部の学生に加え、大学の卒業生でロンドンオリンピックおよび世界選手権出場の福見友子氏を派遣した。

本学柔道方法論研究室における日頃の柔道指導法の研究成果の応用・発揮によって当該地域において最先端の柔道指導法の伝授が可能であり、また学生にとっては新たな研究課題の発見など学業への好循環が期待できる。

本事業では、一日目に岩手県大船渡市の「時習館道場」を訪問し、二日目に宮城県気仙沼市の気仙沼柔道スポーツ少年団を訪問した。本事業の内容としては、参加した福見友子氏が背負投および小内刈、小林優希が大内刈、藤田湧平が大外刈、川戸湧也が内股、近藤俊が一本背負投、菅原歩巴が払腰、佐々木千鶴が袖釣込腰を紹介し、その後巡回して個別指導を行った。その後行った乱取では子ども達全員が指導者及び選手と1本(2分間)以上乱取を行った。

今後は同様の事業を継続的に実施することで被災地域の少年柔道の活性化を通しての地域活力の向上、ならびに学校教育現場における柔道指導法の伝授をおこない、柔道をおこなう環境のさらなる充実を目指し、地域の道場を拠点に学校の教育現場におけるよりいっそうの柔道環境の充実をねらう。



図1 岩手県大船渡市「時習館」での開会式



図2 気仙沼柔道スポーツ少年団での指導



図3 福見氏の背負投の指導